

纏

matoi

2025. 春号
木更津市消防団だより

発行元
木更津市消防団
TEL 22-0119
(警防課)
2025年3月発行
VOL.39



木更津市
ホームページ
消防団だよりへ



木更津市 消防出初式

木更津市消防出初式が令和7年1月19日(日)、旧市役所敷地内で行われました。

当日は晴天に恵まれ、消防車両等の行進から始まった式典では、功績のあった消防団員や日ごろ家庭で団員を支えて頂いている方への内助の功などの表彰が行われました。

また、今回の消防出初式では演技・部隊紹介も例年とは違った、音楽とアナウンスによるスタイルで行われ、消防隊員による「体力向上体操」の実演や災害救助を想定した



総合演技では、はしご車からのロープを使った救助のデモンストラクションなどが披露されました。

スペシャルゲストには木更津市マスコットキャラクター「きさポン」が登場し、消防隊員と一緒にやささもっさも披露されました。

ファイナーレでは、集まった人たちを前に消防車両の一斉放水と川崎市消防局協力によるヘリコプター参加が行われ、大勢の来場者から歓声があがり大盛況となりました。



第47回木更津市消防団 早出し放水競技大会

日時：令和6年11月17日(日)
場所：旧木更津市役所西側駐車場

本大会は実際の火災現場を想定し、いかに迅速に消火活動を行うかというのを目的とした大会となっております。大会内容として実際の消火時間に加え、器具や無線機の取り扱い、規定ポンプ圧力などの項目を審査した結果となっております。



大会の結果

《ポンプ車の部》

- ▽優 勝 2分団1部(桜井)
- ▽準優勝 4分団3部(久津間)
- ▽3 位 4分団1部(中里)



《小型ポンプの部》

- ▽優 勝 7分団3部(井原・曾根)
- ▽準優勝 1分団2部(請西・太田)
- ▽3 位 8分団1部(真重・大稲)
- ▽4 位 3分団4部(犬成・笹子)
- ▽5 位 3分団2部(菅生・椿)
- ▽6 位 1分団1部(中央)



第2分団紹介



第2分団は、現在第1部(桜井14名)・第3部(畑沢・畑沢南・港南台11名)・第4部(大久保・下烏田6名)・第5部(上烏田・八幡台・羽鳥野14名)の4個部により構成されます。第1部のみポンプ車を扱っており、それ以外の個部は小型ポンプを扱っております。

令和6年度の活動として毎年行われる早出し放水競技大会では第1部が優勝し、君津支部操法大会では第5部が木更津市の代表として出場するなど訓練の成果を発揮しています。

また、団員の知識及び技術の向上を図るべく消防本部にて講習会を開催するなどして、地域の皆様と共に火災や自然災害に備えるべく活動を続けてまいります。



私たちの身近なところで、いつ起こるかわからない災害に対して、家庭での備えはしていますか？自分や大切な人の命を守るため、日頃から準備をしておきましょう！

災害時、あなたや家族の大切な命を守るためには、建物の耐震化と室内の安全確保、そして適切な行動が重要となります。そのためには、日頃から自身に関する正しい知識を持ち、様々な備えをしておくことが大切です。



①家屋の安全を確認しましょう

阪神・淡路大震災では、死者数の9割以上が家屋の倒壊や家具類の転倒によるものでした。耐震化チェックのために、「耐震診断」を受け、必要な場合には「耐震改修」を行いましょう。

②部屋の安全を点検しましょう

- (ア) 転倒・落下・移動のおそれのある家具や家電製品を固定する。
- (イ) 収納は、重いものは下へ、軽いものは上へ、扉は留め具で固定する。
- (ウ) ガラスの飛散防止用のフィルム等を貼る。
- (エ) 飛散物で歩けなくなることも想定し、身近にスリッパ、運動靴、軍手などを用意する。
- (オ) 出入口は、いつも整理整頓しておく。

③安否確認手段を複数決めておきましょう

発災時、通常の電話は輻輳するためつながりにくくなります。日頃から家族等との安否確認手段を複数確保しておきましょう。

④日常備蓄を実践しましょう

大規模災害が発生した場合、自宅での避難生活が可能であれば、在宅避難をしましょう。そのためには、避難生活に必要な食べ物や日用品を日ごろから少し多めに備蓄しておく「日常備蓄」が有効です。備えるべき品目・数量については、各家庭の家族構成などにあわせましょう。

⑤自家用車の燃料はいつも満タンにしましょう

首都直下地震など、大規模な災害が発生したときは、必ず給油できるとは限りません。車をお持ちの方は3つの心得で災害に備えましょう。あなたの備えが命を守ります。

- (ア) 災害が起きた時のことを常に意識する
- (イ) 災害時は必ず給油できるとは限らない。
- (ウ) 給油はメーターが半分になる前に行う。

⑥非常用持ち出し袋を準備しましょう

避難所での生活には最低限必要な準備を行い、非常用持ち出し袋はいつでも持ち出せる場所に備えておきます。また、避難に介助が必要な方は、介助者や救助者に分かりやすい場所に置いておきましょう。

⑦避難路経路図を作成・確認しましょう

- (ア) 避難場所・避難所がどこにあるか確かめる。
- (イ) 実際に避難場所・避難所まで歩いてみる。
- (ウ) 狭い道は倒壊物などで通れなくなることがあるので、広い道路を選ぶ。また、複数の経路を用意する。
- (エ) ブロック塀、橋、階段など危険と思われる箇所を確かめる。
- (オ) 交番、役所、消防署、病院などの重要な施設を確かめる。

⑧消火器などの準備をしましょう

出火を防止し、延焼を食い止めることが重要です。そのために、住宅用消火器や住宅用火災警報器、漏電遮断器、感震ブレーカーなどの設置を合わせて行うことが効果的とされています。

また、避難する際にはガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落としましょう。

- ・住宅用消火器
- ・住宅用火災警報器
- ・漏電遮断器
- ・感震ブレーカー
- ・三角消火バケツ
- ・浴槽に水をはる など

⑨緊急連絡カードを作成しましょう

災害発生時には混乱し、冷静な行動が取りにくくなるため、いざという時に必要な事柄（家族の連絡先や電話番号/普段処方されている薬の種類や量、服用方法など）を事前にまとめておきましょう。

⑩乳児用液体ミルクについて

乳児期の栄養は母乳が基本ですが、母乳だけでは足りない場合や、母乳を飲ませてあげられないときに、母乳の代わりに母乳代替食品（粉ミルク、液体ミルク）で補うことができます。

災害時において、粉ミルクの場合には「調乳する水、沸騰させるための熱源の確保が難しい」という事態に直面する可能性があります。一方、液体ミルクは、調乳する必要がなく滅菌済みなのですぐに使用できることや、常温（おおむね25℃以下）で保存できることが特徴で、災害時に有効です。



出典：東京都防災ガイドブック

消防団春季消防演習



令和7年2月16日(日)木更津市消防本部、木更津市消防団による春季消防演習が行われました。

この演習は、激甚化及び多発化する災害に対処するため、



消防団災害マニュアル等に基づき、消防団員の参集訓練、情報伝達訓練、資機材保有調査及び応急手当訓練を実施し、実災害活動を検証するとともに、相互の連携強化、土気高揚を図ることを目的としています。

当日は寒空の下、市内4カ所【本署・金田分署・富来田分署・清川分署】で訓練を実施しました。各訓練会場では、三角巾を使用した「固定及び止血法」や、担架・毛布を使用した「搬送法」の訓練を実施しました。

今後も地域の安心・安全を守る消防団活動が行えるよう、訓練を重ねてまいります。



消防団は地域の皆様とともに自分たちのまちを守ります



大きな災害が発生したときには、行政による対応だけでは、被害者の救助や消火活動には限界があります。そのため、木更津市では地域にお住まいの皆様へご協力を頂いて自主的な災害対応を行うための「自主防災組織」を結成していただき、令和6年度現在で108の自主防災組織が木更津市内に存在しています。

同じ地域に住む消防団は自主防災組織と同じく、自分たちのまちは自分たちで守るという使命をもって活動しており、自主防災組織と消防団が連携することにより様々な場面で地域の防災力の向上につながります。

○同じ地域にいるため防災の課題を共有することができ

○初期消火訓練の開催時に消火器や放水動作について消防団員が指導できる

○避難訓練を自主防災組織と消防団が協力して行うこと

により訓練参加者が増加するため、より多くの災害を想定した訓練ができる

○自主防災組織と連携することにより地域における消防団の認知度が向上する

○大規模災害発生時に行う避難行動において地域住民の安否状況の把握

○大規模災害発生時に必要となる資機材を自主防災組織と消防団で相互に使用できる

地域の防災力は3つの助けによってより強くなります 消防団は地域の皆様と共に連携をして防災力を強くします

自分の身は自分で守る

地域や近隣の人が協力して守る



自助



共助

連携



公助

国や地方自治体を守る



消防団